

教育の諸問題について

(質問) ①若手教職員の転出について、②教育委員会の情報発信について、③教職員と教育委員会事務局の働き方改革について、④公会計化への取り組みについて、⑤教職員(保幼小中高)へのワクチン接種について問う。

(答弁) 教育委員会としては、5つの項目については理解しており、より良い方策を検討していく。教職員の育成については、育成支援を多方面から行いつつ、働き方改革を含めた対応を進めていく。教職員へのワクチン接種については、集団接種の余剰枠を活用するなどして、接種を進めていく。



公共施設政策について

(質問) 公共施設政策を総合政策課と公共施設政策課の2つの課に分割した組織改編の考え方は。白子、千代崎、白鳥の3中学校の改修スケジュールと、合意形成についてどのような方を対象にどのような手法で行うのか。

(答弁) 総合計画と公共施設等総合管理計画の一体的な管理と、公共建築物個別施設計画策定による、技術的見地からの体制整備のため。

6月下旬までに調査報告書の提出を受け、令和4年度予算編成をめどに各校の改修方針を決定し、実施する際は学校運営協議会の場を活用して説明する。



ワクチン接種について

(質問) 市長のワクチン接種にかける思いは。また、市長はいつワクチン接種を受けるのか。

(答弁) 市民へのワクチンの早期接種が進めば、新型コロナウイルス感染症を防止し、長期化している社会的影響の収束につながると考えることから、接種は重要な取り組みであり、一日も早く安心して暮らせる日常を取り戻すため、医療従事者、企業、学校、関係団体などの協力を仰ぎ、希望する全ての方が速やかに接種できるよう取り組む。市長は、年齢階層別に段階的に行う住民接種の中で接種を受けることを考えている。



新型コロナウイルス感染症対策について

(質問) 昨年実施された新型インフルエンザワクチン高齢者無料接種における「かかりつけ医」の役割と評価はどうなっているか。優先接種となっていない障害者施設従事者および障害者とその家族へのコロナワクチン接種をどう進めるか。

(答弁) 昨年の新型インフルエンザワクチン接種率は、過去5年平均を大きく上回り69%となっており、今後とも「かかりつけ医」の啓発に力を入れていく。障害者通所施設は施設内接種により利用者および従事者職員の接種を進める。障害者とその家族については他の自治体の取り扱いを調査する。



高速道路ネットワークを活用した鈴鹿市の産業政策について

(質問) 本市では、現在、西部地区の2本の高速道路にそれぞれインターチェンジが設けられているが、上記を活用した産業活性化に向けた都市計画および土地利用の現状について、どのようになっているのか。

(答弁) 本市の基本的な方針である「鈴鹿市都市マスタープラン」にて、「スマートIC利活用エリア」など、大規模な工業地などの開発需要に対応するため、産業活性化に向けた土地利用方針を示している。また、現在、本市西部地域において地区計画が2カ所、都市計画決定されている。



食の安全について

(質問) 規制緩和により、グリホサート(除草剤)葉物野菜に使用するネオニコ系農薬の残留基準が引き上げられ国際基準を大きく上回り、生態系への影響、人への健康被害が危惧される。特に子どものアトピー、アレルギー、発達障害などの原因の一つと言われている。学校給食に安全性の高いオーガニック農産物を導入しては。

(答弁) 将来的に、有機農産物の供給量が増加し、給食に安定した量の確保が可能となり、また価格面でも従来と同程度になれば検討していく。

その他の質問 ○防災

